

## 医療倫理小委員会で承認された治療法

当院の医療倫理小委員会にて、下記の医療が承認されました。対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、病院ホームページにて情報を公開することにより投薬を実施しております。なお、本件について同意できない場合、診療において不利益を被ることは一切ございません。

この内容に関して拒否される場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

実施内容	アロマターゼ阻害薬（アリミデックス・アロマシン・フェマーラ）を閉経前乳癌の再発転移症例の2次以降の内分泌療法に使用
対象者	ホルモン受容体陽性の転移・再発乳癌患者
承認日	2024年3月6日
対象期間	承認後から永続的に使用
概要	<p><b>【目的・意義】</b></p> <p>ホルモン受容体陽性の遠隔転移・再発した閉経前乳癌には、1次治療としてLH-RHアゴニスト+タモキシフェンが推奨されています。これが不応となった際、LH-RHアゴニストを用いて卵巣機能を閉経後の状態にしたうえで、閉経後に用いるホルモン療法（アロマターゼ阻害剤）の使用が奏功性、無増悪生存期間の観点から国内外で推奨されています。閉経前状態ではありますが、薬剤による化学閉経によって、閉経後の薬剤の治療効果を得ることを期待し、使用します。用法用量は、添付文書に記載されたとおりで使用とします。</p> <p><b>【想定される不利益と対策】</b></p> <p>アロマターゼ阻害薬を使用することにより、関節痛や骨粗鬆症を発症しやすいことが報告されています。そのため、定期的な骨密度の測定で、適宜骨粗鬆症に対する治療薬も併用します。また、関節痛による日常生活への影響が大きいと判断した場合は、アロマターゼ阻害薬の中で違う薬に変更をしたり、鎮痛剤を併用することもできます。症状が改善しない場合は、他の治療薬へ切り替えます。</p>
お問い合わせ先	順天堂大学医学部附属順天堂医院 薬剤部 医薬品情報室 大代表 03-3813-3111